

目的 食欲と色彩に関して、単色については食欲を増強する色、連想する食品などの研究・発表はみられる。私共も着色あめ玉、着色寒天ゼリー等の色の嗜好については報告してきた。しかし実際の調理に際しては、数種の色の食品を配色した盛りつけが重要な要素の一つである。そこでどのような配色が好まれるか、食品の色を生かして作った寒天ゼリーと2色づつ組み合わせ、2色の組み合わせの嗜好を調査した。そしてその嗜好結果を総合して性別・年齢別に、食品の好ましい配色パターン例を作製したので報告する。

方法 赤(いちじ)、橙(みかん汁)、黄(卵黄)、緑(抹茶)、茶(ココア)、黒(コーヒー)、白(牛乳)の7色の寒天ゼリーを1×3cmの拍子木に切り、各色ごとに2色づつ組み合わせ7グループ作り、それぞれのグループからもっとも食べたい組み合わせを選ばせ、その選択理由についても調べた。対象は6才、20才、40～60才の男女である。

結果 もっとも多く好まれた組み合わせは、6才は男女とも赤橙で、とくに女児の場合他の年齢に比較して有意に多い。20才は男女とも橙黄、40～60才は男子は緑白、女子は赤白の組み合わせがもっとも好まれた。6才は男女とも赤との組み合わせを多く好み、赤を中心に他の色が配列した組み合わせを、20才は男女とも白および橙との組み合わせを多く好み、白を中心に他の色が配列した組み合わせを、40～60才は他の年齢に比較して緑との組み合わせをよく好んでおり、男子は白、女子は緑を中心に他の色が配列した組み合わせを好む傾向にある。選択理由は茶を組み入れたもの以外は色の要素で選ぶ傾向がみられた。色の組み合わせの嗜好は、性別・年齢別に差が認められ、それぞれ異った配色パターンを認めた。